



「さがみはら SDG s アワード 2026 授賞式」の開催について

公益社団法人相模原青年会議所、公益社団法人津久井青年会議所及び相模原市の協働により、相模原市内の企業・団体によるSDG sに関する優れた取組を表彰する「さがみはらSDG s アワード 2026」の授賞式を開催します。

1 日 時 令和8年10月22日（木）18:00～18:40

2 場 所 市立産業会館 多目的ホール（中央区中央 3-12-1）

3 出席者 さがみはら SDG s アワード実行委員長 廣田 静香
 さがみはら SDG s アワード副実行委員長 山口 諒
 相模原市長 本村 賢太郎

4 受賞団体 ①相模原市長賞 **NPO 法人ぴあっと**
 ②優秀賞 **特定非営利活動法人メダカのお弁当**
 ③優秀賞 **公益社団法人 SSP**
 ④協働賞 **さがみヒーローズ実行委員会**
 ⑤未来創造賞 **夢の丘小学校4年生**

※受賞団体の詳細は、別紙またはHPをご覧ください。

<https://sdgs.city.sagamihara.kanagawa.jp/sdgsaward2026/>



5 主催 さがみはらSDG s アワード実行委員会

6 その他 取材を希望する場合は、直接現地にお越しください。



昨年の授賞式の様子

相模原市長賞

NPO法人ぴあっと

発達支援情報サイト「みかた」の運営と
相模原市療育施設マップの作成

取組概要

- 相模原市に特化した子どもの発達支援の情報サイト「みかた」を運営し、市内の療育施設132事業所から得た情報を掲載し、月間約12,000PVを達成
- 「相模原市療育施設マップ」を3,000部作成し市内全域に配架

ポイント

- マップは小学校での掲示や、スクールソーシャルワーカー等による相談支援に活用され、教育現場に広がっている
- 家族が一つずつ問い合わせていた療育施設を、条件や地図から比較して探せるようになり、家族の「探す・選ぶ」、支援者の「案内する」、事業所の「家族とつながる」というそれぞれの行動変容に繋がっている

今後の展望

- 発達が気になる子どもと家族が必要な情報や支援に繋がり、安心して自分たちらしく暮らせる相模原を目指す。
- 当事者家族の声から課題を見つけ、教育・福祉・医療・防災・住まい等の分野を越えて多様な主体と協働し、子どもの成長やライフステージが変わっても、地域全体で支え続けられる仕組みをつくる

協働

- (一社)さがみはら子どもの福祉連絡協議会、
(一社)相模原市南区地域障がい福祉連絡協議会：事業所や家族への周知協力
- 児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援事業所等：サイトへの掲載
- (社福)相模原市社会福祉協議会、児童発達支援センター いっぱ・青い鳥・バンビ・子育て広場 緑のおうち・Haere mai・ひだまり・たんと：マップの配架



優秀賞

特定非営利活動法人メダカのお弁当

市内全域をつなぐフードBOX-24-
食・学び・進路を結ぶ地域再接続モデル

取組概要

- 毎朝の手作りお弁当の配布や無料学習支援等を行ってきた経験を踏まえ、必要な方への支援を阻む「5つの壁」（時間、心理的・人間関係、制度理解、情報及び場所）の壁を壊し、宅配BOXを活用した食支援を実施
- 食支援を入口に、学び・制度・進路の支援につなぐ地域再接続モデルを築いている

ポイント

- 企業、店舗、専門学校、フリースクール、福祉施設など多様な地域の協力者が設置に手を挙げ、支援の入口が市内3区14か所へ広がった
- これまで既存の支援につながりにくかった家庭との新たな接点生まれ、利用者から6名がサポーターとして活動に参加するなど、支援される側から支える側へ回る循環も生まれている

今後の展望

- 同じ支援を均等に届けるのではなく、状況に応じた支援につながれる「機会の平等」を目指す
- 食・学び・制度・進路を地域でつなぐとともに、支援する側とされる側の垣根を越え、誰もが地域の担い手になれるきっかけを増やし、ともに支える仲間を市内全域へ広げる

協働

- ラーメン創作麺処めん坊、ヒヤクキチ、ブックカフェHIBARI、神奈川経済専門学校、家庭塾のミライ、Study Place MIRAI、相模原市チームオレンジサポートセンター、Bewish Tokyo、蕎麦処休屋、カドナリ、tomosu café、新磯公民館、藤屋商店：BOX設置
- 市社会福祉協議会、相模原市：支援家庭との接続、BOX設置協力依頼
- インクルーシブ進学就労フェア参画30団体：進学就労情報の一元化



優秀賞

公益社団法人SSP

「できないをできるに変える！」
オートバイ体験走行会による
障がい者の生きがい創出プロジェクト

取組概要

- 地元のものづくり企業や専門学校生、市民ボランティア等と協働し、パラモータースポーツを通じ、**障がい者に喜びを提供し、生きがいを創出する体験走行会**を開催
- バイクの乗車体験や障がい者がバイクに乗れることを知ってもらう**子ども向け体験会「SSPライト」**を市内で**多数開催**し、幼少期からの**心のバリアフリー教育と地域の共生社会の実現**を目指している

ポイント

- 体験走行会により、これまでに延べ**200人以上の障がい者の方に喜びを提供し、生きがいを創出した**。(市内では相模湖MORIMORIや宮ヶ瀬北岸林道で実施)
- 子ども向け体験会「SSPライト」**は相模原公園やアリオ橋本等**親子が訪れやすい場所で多数開催**したほか、**市内企業と専用車両を共同開発し、専門学生を運営に巻き込むことにも成功**

今後の展望

- 障がいの有無に関わらず、挑戦することができる社会に変える**。また、子ども向け体験会や学校での授業等により、幼少期からの**心のバリアフリー教育と地域の共生社会の実現**を図る

協働

- (株)菅原モデル、(有)前田重工業：市内企業として特殊カスタム車両の部品開発や、補助機材の設計・技術提供
- アリオ橋本、相模湖MORIMORI、相模原市：体験走行会等の会場として場所の提供や、イベントの合同開催
- 静岡大学(木谷友哉教授、研究室)：視覚障がい者の方が二輪車を操作できるよう最先端の情報提示システムの構築・構想を協働



協働賞

さがみヒーローズ実行委員会

「捨てられない名刺」の雑談から誕生！
相模原を盛り上げるトレーディングカード

取組概要

- 市内の150種類以上の企業・店舗・人物・名所をトレーディングカード化した「さがみヒーローズ」を作成
- カードは、イベントや店舗で配布し、体験会や大会を通じて子どもから高齢者まで多世代交流を促し、シビックプライドを育てている

ポイント

- 子どもや保護者は、カードを通じて地元企業の技術や名所に自然と触れ、実際に店舗や施設、イベント会場へ足を運び地域回遊のアクションを起こすようになった
- カード掲載企業同士の異業種連携による共創の動きが広がっている

今後の展望

- 「さがみヒーローズ」がコミュニケーションツールとなり、子どもたちが地元の歴史や企業に親しみと誇りを持ち、未来の地域を担う人材へ成長する循環の確立
- 産官学民が一体となった地域で子どもと街を育てるネットワークが定着し、持続可能な地域社会のモデルになる

協働

- ランチパッドテクノロジー&パートナー(株)、(株)Lgo、(株)トーシンリフォーム、(有)昔の味たまご農場、(株)ヤスマラ、ビストロおでん よなが、(株)プラスマークス、(株)トライアス、桃色空間、三光ホーム(株)、(有)ススム消防設備、(株)土田製作所、相陽建設(株)、(株)スカイプラン、(株)SUPLEX（15社※申請時点）
：イベントへの参加・サポート、カード配布、交流の場への参加
- 相模原市：公式イベントで活用、PR協力



未来創造賞

夢の丘小学校4年生

「もったいない」で終わらせない
子どもが地域と挑む食品ロス削減の仕組みづくり

取組概要

- 日本フードエコロジーセンター見学、生産者や地元スーパーによる出前授業を実施し、児童は簡易堆肥による肥料づくりや啓発ポスターの製作、校内でのフードドライブを実施
- 今後は、規格外野菜のマルシェや規格外野菜売り場を展開、規格外野菜を使用したカレー等の商品化に挑戦

ポイント

- 食品ロスを「もったいない」という感情だけでなく、生産・流通・販売・消費の各段階で生じる課題として捉え、立場の違いを踏まえて解決策を考え行動する力を育んだ
- 4年生全体の完食した給食の品目数は1日平均で0.8品目から2.2品目に増加
- 学年で先行実施したフードドライブは38点が集まり、学校全体への働きかけを始めている



今後の展望

- 地域の人や事業者との協働を活かした探究的な学びを継続し、子どもがSDGsを知識として学ぶだけでなく、実社会の課題を多面的に捉え、行動する力を育む教育活動へと発展させる
- 子どもが地域の一員として持続可能な社会づくりに参画し、多様な人々と協働して地域の未来を創ることが当たり前となる地域を目指す

協働

- (株)日本フードエコロジーセンター：施設見学・出前授業
- 新鮮市場なかや 原当麻店：規格外野菜を使ったメニュー開発、規格外野菜売り場展開
- (株)相模原大樹農産：規格外野菜に関する出前授業・メニュー開発
- 夢造りパン工房 相模原本店：規格外野菜を活用したメニュー開発の協力店舗

